

はるの あたたかい ひの こと、わたしぶね＊
に ふたりの 小さな こどもをつれた おんな
の たびびとが のりました。

ふねが でようと すると、「おおい、ちよつと
まってくれ。」と、どての むこうから 手を
ふりながら、さむらい＊＊が ひとり はしつてき
て、ふねに とびこみました。

ふねは でした。さむらいは ふねの まんな
かに どっかり すわっていました。ぽかぽか あ
たたかいので、そのうちに いねむりを はじめま
した。

くろい ひげを はやして、つよそうな さむら
いが、こつくりこつくり するので、こどもたちは
おかしくて、ふふふと わらいました。おかあさ
んは 口に ゆびを あてて、「だまって おい
で。」と いいました。さむらいが おこつては
たいへんだからです。こどもたちは だまりまし
た。

ことば ＊ わたしぶね：人を^{ひと}のせて、かわなどの むこうぎしへ わたす ふね。

＊＊ さむらい：むかし、かたななどを つかって たたかう しごとをした人^{ひと}。

しばらくすると ひとりの こどもが、「かあちゃん、あめだま ちょうだい。」と 手^てを さしだしました。すると、もう ひとりの こどもも、「かあちゃん、あたしにも。」と いいました。

おかあさんは ふところ***から、かみの ふくろを とりだしました。ところが、あめだまは もう 一つ^{ひとつ}しか ありませんでした。「あたしに ちょうだい。」「あたしの こどもは、りょうほうから せがみました。あめだまは 一つ^{ひとつ}しか ないので、①おかあさんは こまってしまいました。「いい こたちだから まって おいで、むこうへ ついたら かってあげるからね。」と 言って きかせても、こどもたちは、ちょうだいよオ、ちょうだいよオ、と だだを こねました。

ことば *** ふところ：きものを きた ときの、むねの あたりの ^{うち}内がわ。

いねむりをしていたはずの さむらいは、ぱ
 っちり 目を あけて、こどもたちが せがむのを
 みていました。おかあさんは おどろきました。
 いねむりを じやまされたので、この おさむらい
 は おこっているに ちがいない、と おもいまし
 た。「おとなしく して おいで。」と、おかあさ
 んは こどもたちを なだめました。けれど こど
 もたちは ききませんでした。

すると さむらいが、すらりと かたなを ぬい
 て、おかあさんと こどもたちの まえに やつて
 きました。おかあさんは まっさおに なって、

②こどもたちを かばいました****。いねむり
 の じやまを した こどもたちを、さむらいが
 きりころすと おもったのです。「あめだまを だ
 せ。」と さむらいは いいました。

おかあさんは おそろおそろ あめだまを さし
 だしました。③さむらいは それを ふねの へり
 ****に のせ、かたなで ぱちんと 二つに
 わりました。そして、「そおれ。」と ふたりの
 こどもに わけてやりました。それから、また
 もとの ところに かえって、こつくりこつくり
 ねむりはじめました。

ことば **** かばう：あぶない ことから まもろうとする。

***** へり：ものの はしの ところ。

なまえ：

とく

もん1

―①で、おかあさんが こまったのは、どうしてですか。一つ えらびましょう。
ア ふたりとも あめだまを ほしがったのに、一つし
か なかったから。
イ あめだまは 二つ あったのに、ひとりが 二つと
も ほしがったから。
ウ ふたりとも あめだまを ほしがったのに、一つも
なかったから。

こたえ

もん2

―②で、おかあさんは どう
して こどもたちを かばっ
たのですか。おもった こと
を、つづけて かきましょ
う。

さむらいが こどもたちを

と おもったから。

もん3

―③の あと、さむらいは あめだまを どうしましたか。一つ えらびましょう。
ア 二つに わって、おかあさんに わたした。
イ 一つの まま、ひとりの こどもに わたした。
ウ 二つに わって、ふたりの こどもに わけた。

こたえ

問3

正解：ウ

本文のどこを見るか

「二つに わりました」と「ふたりの こどもに わけてやりました」。

考え方

割ったことと、分けた相手を合わせて読みます。母親は子どもが切られると思いましたが、侍が刀で割ったのは飴でした。

誤答の理由

ア：分けてもらったのは母親ではなく、二人の子どもです。

イ：飴は一つのままではなく、二つに割られています。

問2

解答例：かたなで きる

本文のどこを見るか

傍線②の直後の「さむらいが きりころすと おもったのです」。

考え方

刀を抜いて近づく侍を見て、母親は子どもが危ないと思いました。これは母親の予想で、侍が子どもを切ると言ったわけではありません。

採点ポイント

解答例は空欄に書く部分です。「きりころす」「きずつける」も正解。原文と同じ強い言葉を使う必要はありません。

「おこる」だけなら、何をされると心配したのかを補います。字数制限はなく、短く答えて構いません。

問1

正解：ア

本文のどこを見るか

二人の「あたしに ちょうだい」と、「あめだまは一つしか ないので」。

考え方

欲しがる子どもの人数と飴の数を結び付けます。二人とも欲しいのに一つしかないことが、困った理由です。

誤答の理由

イ：飴は一つです。一人が二つとも欲しがったわけではありません。

ウ：飴はなくなったのではなく、一つ残っています。

使い方・出典・教材制作

あめだま／小学1・2年生向け

印刷と使い方

全6ページ。本文は1～3ページ、問題は4ページ、解答・解説は5ページ、使い方・出典は6ページです。児童用のみなら1～4ページを印刷してください。A4横向き・片面・実際のサイズ（100％）で印刷します。本文を読む順に上へ並べ、問題をその下に置きます。

取り組み方

全1回です。本文を結末まで続けて読んでから、3問に取り組みます。答えるときは本文を見直して構いません。一人で読む負担が大きい場合は、大人が本文や設問を読んで聞かせてください。

問題と採点

3択2問と、書き出し・語尾の補助がある記述1問です。記述に字数制限はありません。漢字を使う必要もありません。口頭で答えてから書いても構いません。

読み方のポイント

母親が困った理由、母親が心配したこと、侍が実際にしたことを読みます。刀を抜く場面を怖がる場合は、結末まで一緒に読み、予想と実際の出来事を確かめます。最後の母親の気持ちや、侍の人物評価を一つに決めて採点しません。

本文の扱い

提供された青空文庫本文をもとに、内容を省略せず、一部の漢字を平仮名にし、分かち書きと段落を整えました。見出しは「あめだま」と表記しています。ふりがな・注釈・傍線・設問は教材として加えています。

作者・作品

作品：『飴だま』

作者：新美南吉

出典情報

底本：『ごんぎつね 新美南吉童話作品集1』

てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：『校定 新美南吉全集』大日本図書

入力：めいこ

校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ

2003年9月29日作成

出典の確認先

青空文庫

<https://www.aozora.gr.jp/>

本文と書誌・入力校正情報は、ご提供の青空文庫作成ファイルに基づきます。入力・校正・制作は、ボランティアの皆さんによるものです。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン